



白鳳点描

あけましておめでとうございます

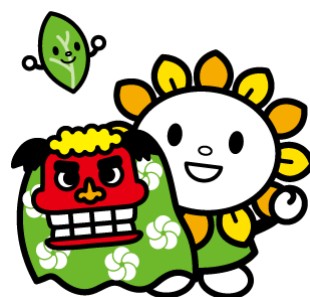
校長 川本 幸則

今年の冬休みは、例年と比べ少し長いお休みでした。ご家族で過ごす時間も多かったことと思います。楽しい時間を過ごすことができ、子どもたちの心のエネルギーも満ちていることでしょう。

私が子どもの頃には、コンビニエンスストアはありませんでした。スーパーマーケットも少なく、年末から年始にかけては、社会の活動も休止状態でした。世の中全体がゆったりとした時間を過ごしていたように思います。

しかし、保護者の方には、この休み中に忙しく働いていた方もいらっしゃると思います。社会の活動を支えたり、生活を守ったりするお仕事などの場合には、休日こそが忙しくなってしまう場合もあります。本当にありがとうございます。

新しい年が始まりました。様々な変化が次々とやってくる現代ですが、子どもたちには「夢」をもって生活して行ってほしいと思います。



子どもたちの一步一步の成長を感じて～～～・～～～・～～～

年末年始にかけて我が家にもぎやかでした。そんな中で、「子どもはこうやって成長していくのだな」と思った出来事がありました。

食卓の上に、花のような形でおいてあるミカンの皮がのっていました。それは、3歳の孫がむいたものでした。いつもは細かくちぎるようにむいてあるミカンの皮ですが、大人の皮むきの様子を見て、やってみたようです。とてもきれいにできたので、捨てられずにいるとのことでした。

この時、自分が子どもだったころのことを思い返しました。

「母親の真似をしたくてミカンの皮をむこうとしましたが、なかなかできずにいたこと」「花のようにミカンの皮がむけた時の喜び」などが頭に浮かびました。

始めて花のような形にミカンの皮がむけた時には、うれしくて母親に報告したと思います。些細なことですが、自分の成長を感じることができた喜びは、とても大きかったと思います。きっと母親は、笑顔で「上手にむけたね」などのように、私の喜びを受け止めて、一緒に喜んでくれたと思います。

温かい母親の対応で、さらに満足感が高まり、自分に自信がもてたので、今でも思い出すことができると考えます。私は、こういった小さな経験を積み重ね、成功したことで自信を高め、失敗を乗り越えることで成長し、今があると感じます。

日常生活の中での一つ一つの経験は小さなことかもしれませんが、その経験を経ることで、自分自身が自らの成長を感じとり成長の糧としていきますが、家族や周りの大人などが、受け止めて、認めることで、その成長がさらに大きくなります。

ジャン＝ジャック・ルソーの「子どもは小さな大人ではない」という言葉があります。子どもには、子どもとして対応していく必要があります。子どもたちの小さな喜びを受け止め、共感したり、認めたりすることで大きな成長が期待できます。

子どもたちが一歩ずつ成長していけるように、子どもたちを取り巻く大人は対応していきたいと思います。